



オトナのふるさと学習

# 月刊このへん だいすき

2月号

記録や形には残らず、日々失われていく地域の記憶  
いまさら人に聞けない「このへん」限定のジャンゴな話題あれこれ  
最近引っ越してきたあなたも  
生まれてこのかたずっと「このへん」なあなたも  
読めばたちまち、「このへん だいすき」に

作 セルジュー・タカハシ

ドキドキ♪



## 徳川家康の腹心の部下が あの事件で「このへん」へ島流し。 やっかいな人物をあずけられた 佐竹の殿様のナイスな対応とは。

徳川家康の  
腹心の部下

すごい!



老中本多正純ほんだまさずみは、父の正信とともに江戸幕府を開いた徳川家康を支えた。小山藩主や宇都宮城主となり幕閣のトップ、家康のナンバーツーだった。

あの事件で  
島流し

家康のメンコだった正純は、二代目徳川秀忠の取り巻きから煙たがられ、將軍暗殺を企んだ宇都宮吊天井事件をでっち上げられて秋田藩へ流罪に。

佐竹の殿様  
ナイスな対応

罪人扱いとはいえ徳川幕府の重鎮。当時の秋田藩主だった佐竹義宣は、正純の身柄を横手城の近くに移動して丁寧に扱い、男気を見せた。

徳川幕府を開いた家康腹心の部下が、本多上野介正純ほんだのうえのすけまさずみでした。関が原で負かした石田三成の身柄を預り、大坂夏の陣では城の堀を埋めさせるなど、まんま日本史に出てくる人物なのです。二代將軍秀忠の時代になると、吊天井を使って將軍暗殺を企てたとの疑いをかけられ、由利の大沢郷に流されて秋田藩預かりの身となります。常陸の大大名だった佐竹氏が、秋田にトバされたのは、かつての正純の指示によるものでした。しかし秋田藩主の佐竹義宣は、正純をていねいにあつかいます。城代がいる横手城近くに移し、しばしば屋敷を訪れては一緒に魚釣りをしたともいわれます。ひどい目にあわせた自分を手厚くもてなす佐竹の殿様に、正純は何を思ったのでしょうか。ほどなく、公儀隠密の告げ口で待遇は改悪され、押し込め同然のまま正純はこの世を去ります。屋敷のあったあたりは上野台と呼ばれ、横手地方裁判所の職員有志が建てた正純の碑が今も建っています。

POINT

家康のナンバーツー本多正純が、えん罪で「このへん」へ流罪に。佐竹の殿様は親身にもてなしたが、幽閉された横手城近くで死亡。

